

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	公共交通 ～便利で移動しやすいまちとは～			
開催日時	令和6年11月 5日 19時00分 ～ 20時15分			
開催場所	多治見市役所駅北庁舎 4階大ホール			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	司会・説明者	若尾 敏之
	グループ司会者	Aグループ：亀井芳樹 Bグループ：葉狩拓也 Cグループ：玉置真一		
	対話議員	Aグループ：林 美行、奥村孝宏		
		Bグループ：石田浩司、寺島芳枝		
		Cグループ：吉田企貴		
	サポート	Aグループ：仙石三喜男、加藤智章 Bグループ：井上あけみ、獅子野真人 Cグループ：嶋内九一、片山竜美		
記録者	Aグループ：成田康弘、Bグループ：黒川昭治、Cグループ：三輪寿子			
参加人数	合 計 28人			
報告内容	【Aグループ】 多治見市が進めるネットワーク型コンパクトシティを推進するためには、公共交通で結ぶことが重要であるため、しっかり議論しなくてはならない。 ◇バスチケット65にについて ・良い施策ではあるが、地区によっては使用できない、利用しにくいところがある。 ・タクシーにも補助を検討してほしい。 ・高齢者など、車の運転ができない市民に優しい補助制度を期待する。 ◇公共交通問題解決には ・公共交通を利用していない人を対象に地域ごとのヒアリングが実施されないと、公平で有効な取り組みにならない。 ・生活の中の困りごととは何かを問うアンケートが必要である。（買い物などは、バス・タクシーを利用するより、宅配充実を考える。） ・交通の利便性を有効的に高めるためには、地域ごとにピンポイントでお金を使って適正化することが大切である。 ◇その他の意見 ・今後は、市から車を提供しボランティアで運行する「ライドシェア」を促進してはどうか。 ・多治見市地域公共交通計画に「バス・タクシー運転手確保に向けての支援」とあるが、具体的に何をするのか。 ・あいのりタクシーの導入は複雑で難しい。地域に任せず市で管理すればさらに広範囲で有効に利用できると考える。 【Bグループ】 （参加者居住地区） 喜多町・ホワイトタウン・小泉町・根本町・笠原町・大畑町・北丘町・大日町・市之倉ハイランド ◇バスチケット65について			

- ・近くにバスがない、バス停が遠いなど、使用できる環境にない人には意味がない。タクシーや電車などで使えるようにしてほしい。
- ◇地域あいのりタクシーについて
 - ・区の規模に差があり、財政が厳しいところでは補助が困難。
- ◇よぶくるバスについて
 - ・乗ってみたら運転手さんが親切でよかった。市之倉ハイランドには、よぶくるバスは昼間になくて残念。今はよいが、将来的に運転手不足の問題でよぶくるバスがなくなってしまうことを思うと怖い。
- ◇路線バスについて
 - ・10月のダイヤ改正で笠原方面は、モザイクタイルミュージアムまで行かないバスが増えた。多治見市の観光スポットなのに、いかがなものか。
 - ・路線バスは本数やバス停が減ったが、ほかの交通会社が参入することはできないか。
 - ・大幅にダイヤが遅れたのに、説明がなく不親切であった。原因は休日の渋滞だったが、それを見越したダイヤ考えるべきである。
- ◇その他
 - ・公共交通で移動手段を補うには限界があるため、自分たちの地域で取り組まないといけない。
 - ・財源がないなら、交通税のような新たな税を設けてはどうか。
 - ・一律に運転免許証の返納を促すことはいかがか。
 - ・古虎溪駅の防犯カメラは壊れたままで提言しても修理してもらえない。
 - ・議員としての今後のビジョンはどのようなか。
- 【Cグループ】
- ◇公共交通に関する意見
 - ・住んでいる地域のあいのりタクシーは、月2回のため、少なくとも週1回に増便してほしい。
 - ・東鉄バスもその他の民間のバス（トライアングルバスを含む）も市之倉町から笠原町までの運行がないため、大変不便である。
 - ・バスチケット65は、東鉄バスが1時間に1本と便数が少ないため利用していない。限られた財源を活かすため、多くの市民が利用できる工夫や福祉について真剣に考えてほしい。
 - ・バスチケット65は、東鉄バスが減便または廃線になったため、使用できない。
 - ・民間事業者で全て運営するには限界がある。例えば、チケット制にして動ける人が病院、買物に連れていくなど有償ボランティアを充実させる。
- ◇その他
 - ・交通の便が良くなれば、若い世帯も増え人口増につながり、空き家問題も減少するのではないか。
 - ・高齢者に運転免許証の返納を促すと言うが、特典がないため返納すると何もできなくなる。安心して返納できるようにしてほしい。
 - ・対話集会に来られた方は、ほとんどが自家用車で来られている。運転できない方が参加できるように、地域の公民館や集会所などで生の声を聴いてほしい。

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	公共交通 ～便利で移動しやすいまちとは～			
開催日時	令和6年11月 7日 14時00分 ～ 15時15分			
開催場所	多治見市役所本庁舎 2階大会議室			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	司会・説明者	若尾敏之
	グループ司会者	Aグループ：黒川昭治 Bグループ：成田康弘 Cグループ：三輪寿子		
	対話議員	加藤智章、井上あけみ、仙石三喜男、片山竜美、獅子野真人、嶋内九一		
	サポート	Aグループ：林 美行、寺島芳枝 Bグループ：玉置真一 Cグループ：奥村孝宏、吉田企貴		
	記録者	黒川昭治		
参加人数	合 計 24人			
報告内容	【Aグループ】 意見や要望は、以下のような内容があった。 ◇バスについて ・路線バスは無くなったら困るため、公的な支援が必要ではないか。 ・数字やデータを基にして、バランスよく運行を決めてはどうか。 ・楽しみながら使えるよう、バスを使ったらマイレージがたまるなどの施策はどうか。 ◇公共交通全体について ・地域公共交通活性再生法もあるため、公助の部分を強めて欲しい。 ・対話集会の内容に関して、知らない市民も多い。周知はしているかもしれないが、定期的に各地域で説明会をしてほしい。 ◇提案 ・ライドシェアや、地域のバス便をつくっていくことが解決方法のひとつではないか。 ◇提案に対する意見 ・地域のバスに関しては運転手が70代から80代のため、今後の存続が危ぶまれる。 早急な解決は難しいが、今ある便をなるべく使うことも必要であるとの見方もあった。 いただいた意見をどのようにするかが今後の課題である。 【Bグループ】 ◇バスチケット65について ・広報不足である。 ・バスのない地域には必要ない。 ・タクシーなどバス以外にも使えるようにならないか。 ◇トライアングルバス・地域あいのりタクシー ・使い勝手が悪い。 ◇全般 ・対話集会での意見が政策につながっているのか、報告してほしい。			

	・アマゾンが社員をバスで送迎するように、市として民間事業者公共交通機関を利用してもらうことを推奨することはできないか。 ・地域の自治会で自主運行バスを走らせたい。 ・自動運転バスの実証実験が始まるが、運転手がいないと不安である。一方でファミリーレストランなどでは、ウェイターがロボットになり、運転手不足は避けられない。 ・高齢者が多く、郊外団地からの移動が困難である。 【Cグループ】 ◇公共交通の課題・不満 ・バスの本数、路線が減った。(中町、大畑町) ・今のところ、路線バスもあり助かっているが、今後路線が減っていくのではないかとという不安がある。現状を維持してほしい。(旭ヶ丘) ・交通の結節点が多治見駅1か所しかなく、集中していることが問題である。太多線のどこかの駅に交通の結節点をもう1か所つくってみてはどうか。 ・ききょうバスの運行しているルートが少ない。(星ヶ台) ・バスチケット65を市がもっとPRをしてほしい。便利な使い方やもっと利用しやすくなるような方策を検討して欲しい。 ・タクシーの運賃が高い。また、深夜のタクシーが少なすぎる。 ◇提案・改善策 ・新たな公共交通の一つとして電動自転車(シェアサイクル)を位置づけ、郊外にもシェアサイクルを増やし、駐輪場の充実や自転車レーンの整備などを検討して欲しい。 ・公共交通の料金を市内均一にしてみてもどうか。 ・路線バスを維持するため、車を運転できる方もあえてバスを使うなど、市民一人一人がもっと公共交通を使うべきである。 ・地域で助け合って送り迎えをする。ボランティア的なライドシェアはどうか。 ・買い物へ行く回数を減らすため、ドローンなどによる宅配サービスを充実させる。 ・バスが大きく、人がほとんど乗っていないように感じる。もっと小さなバスを中心に運行してみてもどうか。 ・公共交通の財源として、企業誘致した会社に税金を課してはどうか。 ・40年前に市之倉ハイランドができた頃は、若い世代が多く、自分たちで運転ができるので不便ではなかった。もう一度若い人たちが住みたくなるような施策を行ってみてはどうか。
--	---